

# 岩屋中だより

令和6年9月17日 NO14

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

『歌声には、人を感動させるすごい力がある』  
『禪（たすき）には、みんなで頑張った気持ちが込められている』  
～何のために努力するのか、そのベクトルを揃えられるかが成功の鍵～

## 『感動とは・・・』

2学期になって、校内では、歌声が響くようになりました。9月27日（金）の合唱コンクールに向けて、各学級での練習が始まっています。3年生は、『最後の合唱コンクール』という気持ちもあり、この行事にかける思いの強さを感じます。2年生は、昨年度の経験を生かした練習になり、経験は力なりという言葉を感じます。1年生は、中学校生活初めての行事なので、試行錯誤の連続であったり、手探りの状態ですんでいることでしょう。

行事には、それぞれに意義や効果がありますが、合唱コンクールは、『心』を揃えることで、これまで経験することができなかった成長を手に行事だと考えます。

さあ、ここで『心』という字が出てきました。『心』がそろった歌声は、人の『心』を揺さぶります。皆さんも、音楽の授業、日頃聴く音楽で、心に残る曲がありませんか？印象に残ってまた聴きたいと思う曲がありませんか？合唱、合奏など音楽は、人の『心』に残り、人の『心』を揺さぶり、人の『心』を動かす素晴らしいものだとは私は感じています。『人の心を動かす』これこそ、感動だと思うのです。私たち人間は、その音楽が本物であればあるほど、心動かされ、感動をするものです。各学級で目指す歌は、聴いている多くの人の『心』を『動かす』ものであってほしいと願います。人の心を動かすことができる力を手に入れ、その歌を歌う集団が一つになるために努力をするのです。力を合わせ感動する歌をつくりあげましょう。その努力は、賞のあるなしにかかわらず、皆さんの生きる道標（みちしるべ）になるはずです。これは、始業式で触れた（前号で触れた）『自分を大切にする』を実践する場面です。協力するために自分はどうあるべきかを考え、ベクトル（力の向き）を自分自身に、自分たち自身にむけ努力を重ねてほしいと思います。

合唱コンクールという行事ができること、これは当たり前ではありません。歌を皆で歌うことができることは当たり前のことではありません。音楽という芸術を肌で感じるができる環境に生まれ、音楽という芸術ともに生活を続けた環境や、一つの行事に多くの人と努力をして成功を目指すことができる環境に感謝しながら、合唱コンクールができることは『ありがたし=ありがとう』という気持ちであってほしいと切に願います。

- 人生の宝物となる歌声を・・・
- 人生の宝物となる努力の過程を・・・
- 人生の宝物となる経験を・・・

大人になったあなたが、青春時代の宝物は？と問われたときに、自信をもって『合唱です』と言えるように・・・

また、成人祝賀会の折に、話題になるのが、合唱コンクールです。月日がたっても、自分たちでつくりあげたものは、必ず心に残り、その後の生きていく糧（かて）になると私は信じます。

## 中総体駅伝競走大会に向けて、練習も大詰め

10月5日（木）に長崎市中総体駅伝競走大会が行われます。この大会のために、頑張ってみようという素晴らしい自主的な意思の下、50人弱の生徒が努力を重ねています。駅伝競走競技は、禪（たすき）に全員の願いを込めて競走する競技で、走っているときの孤独感や苦しみを他の生徒がサポートや応援で支えながら競技をします。お正月に社会人の駅伝や箱根駅伝をテレビで視聴した人も多いことでしょう。自分の部活もあるけど頑張る生徒、自分の部活にきつと役立つと信じて頑張る生徒、頑張っている仲間のために声掛けをする生徒・・・皆で頑張って、その頑張りの中で個々人が成長していくと思います。長い人生の中で、頑張った軌跡と禪（たすき）に願いを込める経験は、大きな宝物になると信じます。